

2017.9/24  
**創業者遺族ら申告漏れ**

**サンコー、相続税十数億円**

国税指摘

精密プレス加工のサンコー（長野県塩尻市、東証2部上場）の創業者で、2013年に死去した村富男氏（当時90）の遺

族らが、相続税について申告加算税を含め数億円とみられる。

遺族の一人で富男氏の長男、正則氏（55）は現在のサンコーの会長。正則氏ら遺族側は処分を不服とし、国税不服審判所

に審査請求する方向で検討している。

関係者によると、遺族はサンコー株などを保有する会社の株式を相続財

**生々みど**



産として申告したが、同国税局は、申告した株式の評価が実際より低く、申告漏れに当たると指摘したもようだ。価格の評価がしやすい

上場株と異なり、資産管理会社など非上場株の評価を巡っては納税者と国税当局の間で争いになるケースもある。

遺族側は取材に対し、代理人弁護士を通じて国税当局から更正処分があったことを認めた上で「相続財産の評価に関して見解の相違があり、申告漏れとは考えていない」などとコメントした。